

宮崎県感染症週報

宮崎県薬務感染症対策課・宮崎県衛生環境研究所

令和8年第2週(ARIのみ第1週)の発生動向

□ 全数報告の感染症 (2週までに新たに届出のあったもの)

- 1類感染症：報告なし。2類感染症：結核2例。
 3類感染症：報告なし。4類感染症：つつが虫病1例。
 5類感染症：侵襲性肺炎球菌感染症1例、梅毒1例、百日咳2例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類 結核	結核	日南	20歳代	女	肺結核	なし
		日向	60歳代	男	肺結核	咳
4類 つつが虫病	つつが虫病	都城	50歳代	男	—	頭痛、発熱、刺し口、発疹、その他
5類 侵襲性肺炎球菌感染症 梅毒 百日咳	侵襲性肺炎球菌感染症	宮崎市	60歳代	男	—	発熱、全身倦怠感、菌血症
	梅毒	宮崎市	0~4歳	女	先天梅毒	その他
	百日咳	延岡	5~9歳	男	—	持続する咳、夜間の咳き込み
		日南	50歳代	女	—	持続する咳、夜間の咳き込み、スタッカート

□ 定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は1,173人(定点当たり52.0)で、前週比108%と増加した。なお、前週に比べ増加した疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、伝染性紅斑で、減少した主な疾患はインフルエンザ、咽頭結膜熱であった。また、第1週の急性呼吸器感染症の報告総数は1,388人(定点当たり57.8)で、前週比60%と減少した(年末年始含む)。

【インフルエンザ】

報告数は877人(31.3)で、前週比81%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(37.8)の約0.8倍であった。年齢群別は15歳未満が全体の約6割を占めた。

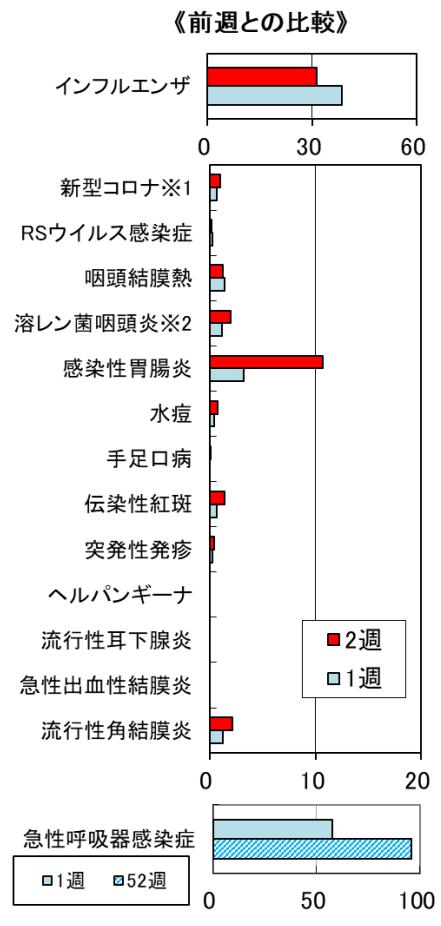
【伝染性紅斑】

報告数は21人(1.4)で、前週比210%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.53)の約2.6倍であった。年齢群別は1歳から2歳が全体の約4割を占めた。

【咽頭結膜熱】

報告数は19人(1.3)で、前週比89%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.57)の約2.2倍であった。年齢群別は6カ月から2歳が全体の約4割を占めた。

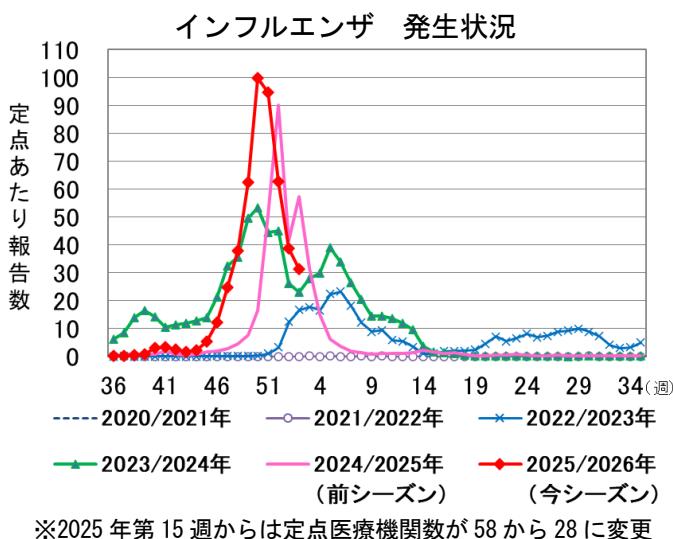
* 新型コロナウイルス感染症流行前5年間(2015~2019)の当該週、前週、後週(計15週)の平均値



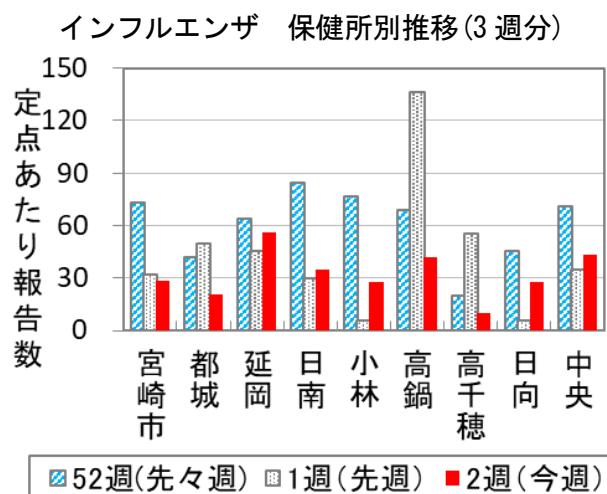
定点あたり報告数

※1 新型コロナウイルス感染症

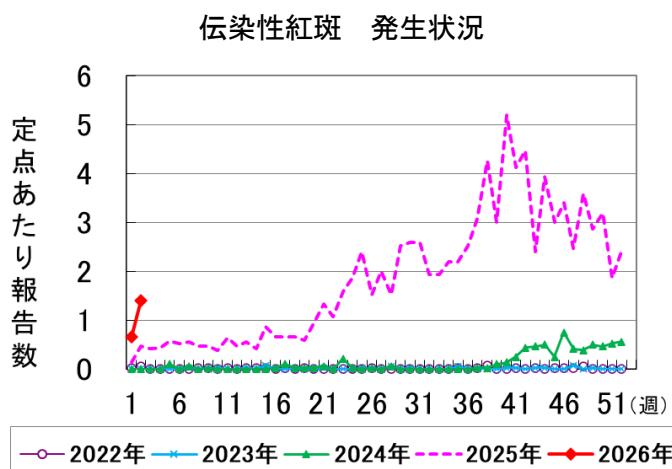
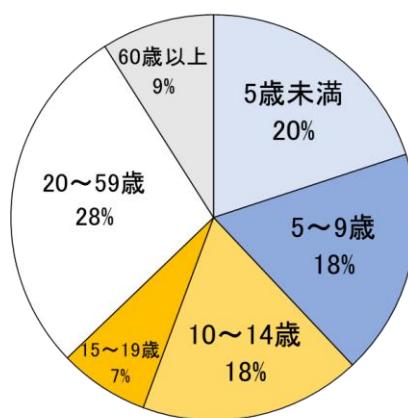
※2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



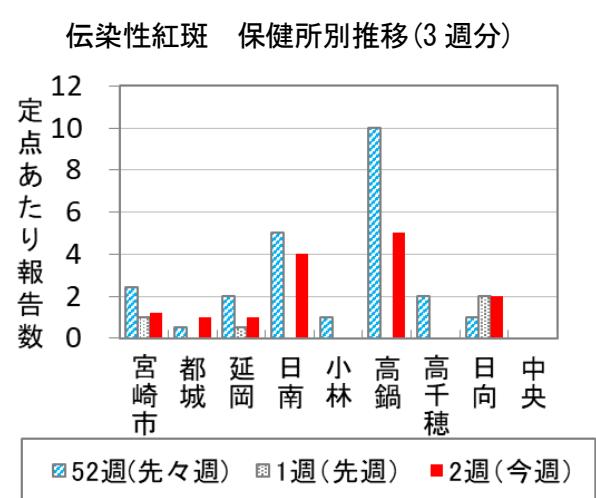
※2025年第15週からは定点医療機関数が58から28に変更

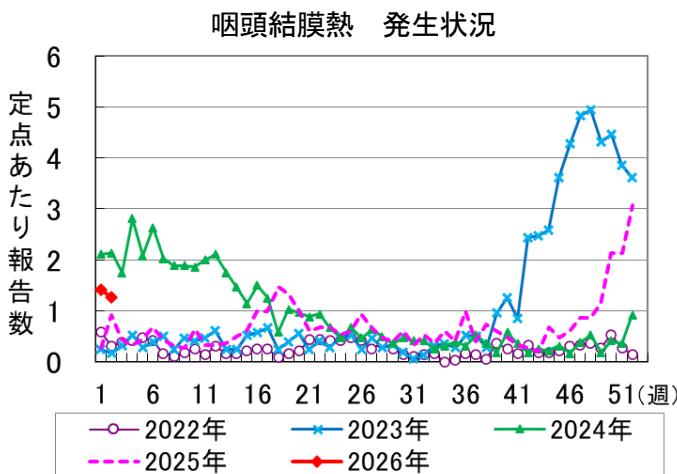


インフルエンザ年齢群別グラフ(第2週)

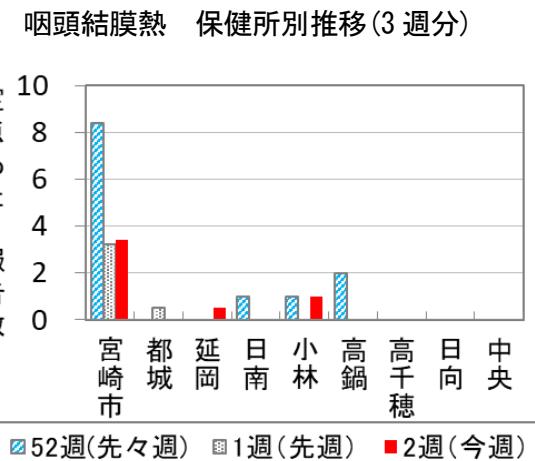


※2025年第15週からは定点医療機関数が36から15に変更





※2025年第15週からは定点医療機関数が36から15に変更



★基幹定点からの報告★

○マイコプラズマ肺炎：報告数は4例(定点当たり0.57)で、宮崎市(3例)、日向(1例)保健所から報告があった。年齢は5～9歳が2例、15歳～19歳が2例であった。

○感染性胃腸炎(ロタウイルス)：報告数は2例(定点当たり0.29)で、高鍋(1例)、日向(1例)保健所から報告があった。年齢はいずれも5～9歳であった。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患
宮崎市	インフルエンザ(28.3)、咽頭結膜熱(3.4)、水痘(2.2)
都城	インフルエンザ(20.5)
延岡	インフルエンザ(56.0)
日南	インフルエンザ(35.0)、伝染性紅斑(4.0)
小林	インフルエンザ(28.0)、感染性胃腸炎(26.0)
高鍋	インフルエンザ(42.0)、伝染性紅斑(5.0)
高千穂	インフルエンザ(10.0)
日向	インフルエンザ(28.0)、感染性胃腸炎(35.0)、伝染性紅斑(2.0)
中央	インフルエンザ(43.0)

流行警報レベル開始基準値

- ・インフルエンザ(30)
- ・咽頭結膜熱(3)
- ・感染性胃腸炎(20)
- ・水痘(2)
- ・伝染性紅斑(2)

流行注意報レベル基準値

- ・インフルエンザ(10)

口病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部）

★急性呼吸器感染症(Acute Respiratory Infection: ARI)

(2025年第52週:12月22日~28日搬入分) (2026年第1週:12月29日~1月4日搬入分)

検出病原体		検出数	
インフルエンザウイルス	A型	AH1pdm09	
		0	
	B型	AH3	
		7	
ビクトリア系統		0	
山形系統		0	
新型コロナウイルス		1	
RSウイルス	A型	0	
	B型	0	
パラインフルエンザウイルス	1型	0	
	2型	0	
	3型	0	
	4型	0	
ヒトメタニューモウイルス		0	
ライノウイルス		1	
エンテロウイルス		0	
アデノウイルス		0	
インフルエンザウイルスAH3・ インフルエンザウイルスB(ビクトリア系統)		1	
検出せず ^{※2}		5	
受付検体数		15	

検出病原体		検出数	
インフルエンザウイルス	A型	AH1pdm09	
		0	
	B型	AH3	
		0	
ビクトリア系統		0	
山形系統		0	
新型コロナウイルス		0	
RSウイルス	A型	0	
	B型	0	
パラインフルエンザウイルス	1型	0	
	2型	0	
	3型	0	
	4型	0	
ヒトメタニューモウイルス		0	
ライノウイルス		0	
エンテロウイルス		0	
アデノウイルス		0	
検出せず ^{※2}		0	
受付検体数		0	

* 第1週は、ARI病原体定点医療機関からの検体提出が0件であった。

- 急性呼吸器感染症(ARI) ^{※1}サーベイランス検体について、急性呼吸器感染症サーベイランス遺伝子検査マニュアルに従い、検査を実施した。
- ※1 急性呼吸器感染症(ARI)：咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上の症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例
- ※2 上記のいずれのウイルスも検出されなかった検体数を計上

■ 全国2025年第52週、2026年第1週の発生動向

□ 全数報告の感染症

● 第52週

1類感染症	報告なし	
2類感染症	結核	
3類感染症	細菌性赤痢	
4類感染症	E型肝炎	2例
	デング熱	44例
	エンテロウイルス	1例
5類感染症	日本脳炎	295例
	アメーバ赤痢	3例
	急性弛緩性麻痺	2例
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1例
	後天性免疫不全症候群	2例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例
	ジアルジア症	1例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	48例
	侵襲性肺炎球菌感染症	4例
	パンコマイシン耐性腸球菌感染症	1例

● 第1週

1類感染症	報告なし	
2類感染症	結核	
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	
4類感染症	E型肝炎	13例
	重症熱性血小板減少症候群	1例
5類感染症	デング熱	37例
	つつが虫病	3例
	ウイルス性肝炎	2例
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	9例
	急性脳炎	2例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1例
	パンコマイシン耐性腸球菌感染症	1例

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

● 第 52 週

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 79%と減少した。なお、前週と比較して増加した主な疾患は感染性胃腸炎で、減少した主な疾患はインフルエンザであった。また、急性呼吸器感染症の報告数は前週比 95%とほぼ横ばいであった。

インフルエンザの報告数は 87,534 人(22.8)で前週比 70%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(11.4)の約 2.0 倍であった。宮崎県(62.6)、鹿児島県(48.0)、佐賀県(39.9)からの報告が多く、年齢群別では 15 歳未満が全体の約 7 割を占めた。

伝染性紅斑の報告数は 997 人(0.43)で前週比 84%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.38)の約 1.1 倍であった。宮崎県(2.4)、鹿児島県(2.0)、熊本県(1.7)、山口県(1.7)からの報告が多く、年齢群別では 3 歳から 6 歳が全体の約 6 割を占めた。

咽頭結膜熱の報告数は 861 人(0.37)で前週比 116%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.52)の約 0.7 倍であった。宮崎県(3.1)、島根県(1.3)、福岡県(0.86)からの報告が多く、年齢群別では 1 歳から 2 歳が全体の約半数を占めた。

● 第 1 週

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 44%と減少した(年末年始含む)。なお、前週と比較して増加した主な疾患は特になく、減少した主な疾患はインフルエンザ、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎であった。また、急性呼吸器感染症の報告数は前週比 40%と減少した。

インフルエンザの報告数は 33,217 人(10.4)で前週比 45%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(16.6)の約 0.6 倍であった。宮崎県(38.7)、鹿児島県(23.2)、沖縄県(23.2)からの報告が多く、年齢群別では 15 歳未満が全体の約 4 割を占めた。

伝染性紅斑の報告数は 210 人(0.11)で前週比 26%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.36)の約 0.3 倍であった。愛媛県(0.85)、熊本県(0.67)、宮崎県(0.67)からの報告が多く、年齢群別では 3 歳から 6 歳が全体の約半数を占めた。

咽頭結膜熱の報告数は 255 人(0.13)で前週比 35%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.39)の約 0.3 倍であった。宮崎県(1.4)、山形県(0.55)、群馬県(0.47)からの報告が多く、年齢群別では 1 歳から 3 歳が全体の約 6 割を占めた。

* 新型コロナウイルス感染症流行前 5 年間(2015-2019)の当該週、前週、後週(計 15 週)の平均値

月報告対象疾患の発生動向 <2025年12月>

□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は34人(2.6)で、前月比103%とほぼ横ばいであった。また、昨年12月(2.5)の約1.1倍であった。

《疾患別》

○性器クラミジア感染症：報告数20人(1.5)で、前月の約1.1倍、昨年12月の約1.3倍であった。

20歳代が全体の6割を占めた。

(男性3人・女性17人)

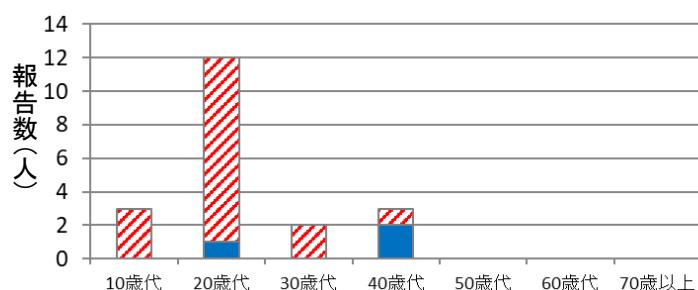
○性器ヘルペスウイルス感染症：報告数7人(0.54)で、前月の約0.8倍、昨年12月の約0.9倍であった。(女性7人)

○尖圭コンジローマ：報告数1人(0.08)で、昨年12月の約0.3倍であった。

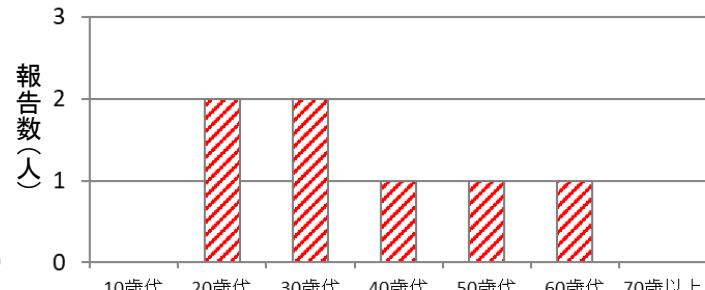
(女性1人、前月報告なし)

○淋菌感染症：報告数6人(0.46)で、前月及び昨年12月と同率であった。(男性4人・女性2人)

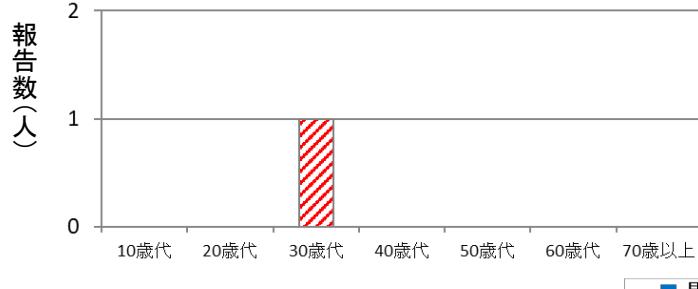
性器クラミジア



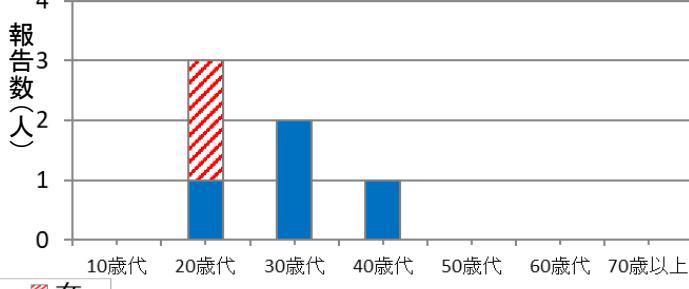
性器ヘルペス



尖圭コンジローマ



淋菌



【全国】

定点医療機関からの報告総数は4,126人(4.2)で、前月比96%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,136人(2.2)で前月比94%、性器ヘルペスウイルス感染症932人(0.95)で前月比103%、尖圭コンジローマ482人(0.49)で前月比102%、淋菌感染症576人(0.59)で前月比89%であった。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は25人(3.6)で、前月比147%と増加した。また、昨年12月(2.1)の約1.7倍であった。

《疾患別》

○メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数24人(3.4)で、前月の約1.4倍、昨年12月の約1.6倍であった。70歳以上が全体の約7割を占めた。

○ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告数1人(0.14)であった。(前月及び昨年12月報告なし)

○薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

【全国】

定点医療機関からの報告総数は1,347人(2.8)で、前月比107%と増加した。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,304人(2.7)で前月比106%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症34人(0.07)で前月比140%、薬剤耐性緑膿菌感染症9人(0.02)で前月比100%であった。

宮崎県 感染症情報

(41定点医療機関)

2026年 第02週(01月05日～01月11日)

疾病名	第01週	第02週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数 929 定点当り 38.71	877 31.32	255 28.33	82 20.50	168 56.00	70 35.00	56 28.00	84 42.00	20 10.00	56 28.00	86 43.00
新型コロナ ウイルス感染症	報告数 16 定点当り 0.67	28 1.00	2 0.22	2 0.50	3 1.00	3 1.50	4 2.00	4 2.00	8 4.00	1 0.50	1 0.50
RSウイルス 感染症	報告数 3 定点当り 0.25	2 0.13	1 0.00	1 0.50	1 0.50	0.00 0.00	0.00 1.00	0.00 0.00	0.00 0.00	0.00 0.00	0.00 0.00
咽頭結膜熱	報告数 17 定点当り 1.42	19 1.27	17 3.40	17 0.00	1 0.50	1 0.00	1 1.00	0.00 0.00	0.00 0.00	0.00 0.00	0.00 0.00
A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	報告数 14 定点当り 1.17	29 1.93	10 2.00	3 1.50	2 1.00	2 2.00	2 2.00	5 5.00	3 0.00	2 3.00	2 2.00
感染性胃腸炎	報告数 38 定点当り 3.17	160 10.67	31 6.20	10 5.00	30 15.00	7 7.00	26 26.00	3 3.00	13 13.00	35 35.00	5 5.00
水 痘	報告数 5 定点当り 0.42	11 0.73	11 2.20	11 0.00	0.00 0.00	0.00 0.00	0.00 1.00	0.00 0.00	0.00 0.00	0.00 0.00	0.00 0.00
手足口病	報告数 1 定点当り 0.00	1 0.07	1 0.20	1 0.00	0.00 0.00						
伝染性紅斑	報告数 8 定点当り 0.67	21 1.40	6 1.20	2 1.00	2 1.00	4 4.00	0.00 0.00	5 5.00	2 0.00	2 2.00	2 0.00
突発性発しん	報告数 3 定点当り 0.25	6 0.40	1 0.20	1 0.50	1 0.00	1 1.00	0.00 0.00	1 1.00	1 0.00	1 1.00	1 1.00
ヘルパンギーナ	報告数 0.00 定点当り 0.00	0.00 0.00									
流行性耳下腺炎	報告数 0.00 定点当り 0.00	0.00 0.00									
急性出血性 結膜炎	報告数 0.00 定点当り 0.00	0.00 0.00									
流行性角結膜炎	報告数 5 定点当り 1.25	13 2.17	1 0.33	9 4.50	3 3.00						
細菌性結膜炎	報告数 0.00 定点当り 0.00	0.00 0.00									
無菌性結膜炎	報告数 0.00 定点当り 0.00	0.00 0.00									
マイコプラズマ 肺炎	報告数 1 定点当り 0.14	4 0.57	3 3.00	3 0.00	0.00 0.00	0.00 0.00	0.00 0.00	0.00 0.00	1 1.00		
クラミジア肺炎	報告数 0.00 定点当り 0.00	0.00 0.00									
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数 0.00 定点当り 0.00	2 0.29	0.00 0.00	0.00 0.00	0.00 0.00	0.00 0.00	0.00 0.00	1 1.00	1 1.00	1 1.00	1 1.00

2026年 01週(12月29日～01月04日)

	第52週	第01週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
急性呼吸器 感染症	報告数 2686 定点当り 95.93	1388 57.83	362 45.25	288 72.00	203 67.67	165 82.50	6 6.00	209 209.00	20 20.00	33 16.50	102 51.00

第2週:ARI定点:28、小児科定点:15(ARI定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

第1週:ARI定点:24、小児科定点:12(ARI定点を兼ねる)、眼科定点:4、基幹定点:7

●全数把握対象疾患累積報告数(2026年 第01週～02週 保健所受理分)

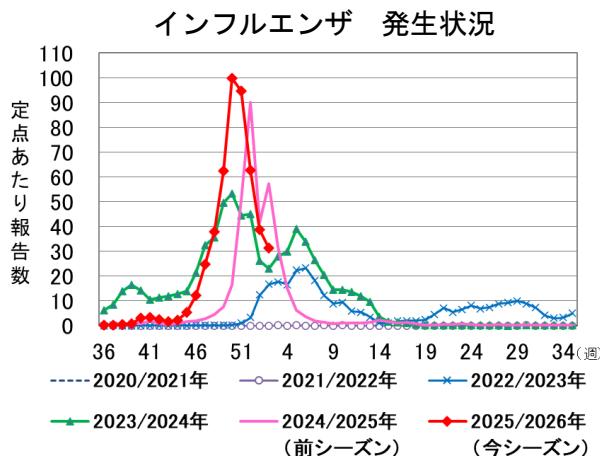
2類感染症	結核	3例(2)									
4類感染症	つつが虫病	1例(1)									
5類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	1例(1)	梅 毒	1例(1)	百 日 咳	3例(2)					

()内は今週届出分、再掲

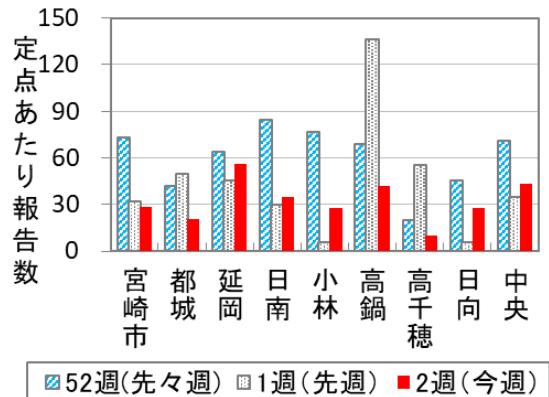
■ インフルエンザ情報《県内第2週、全国第52・1週（再掲）》

□ 県内第2週インフルエンザ発生動向

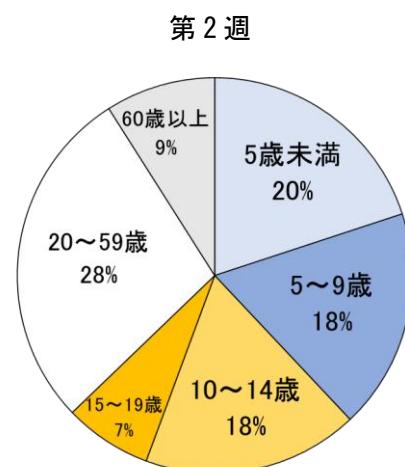
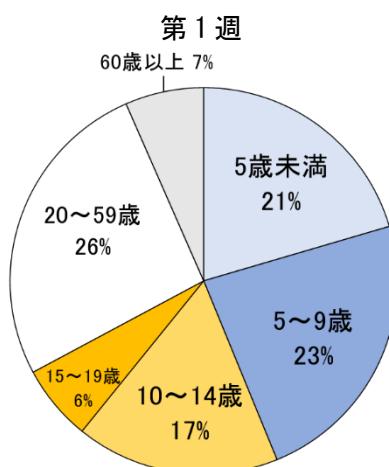
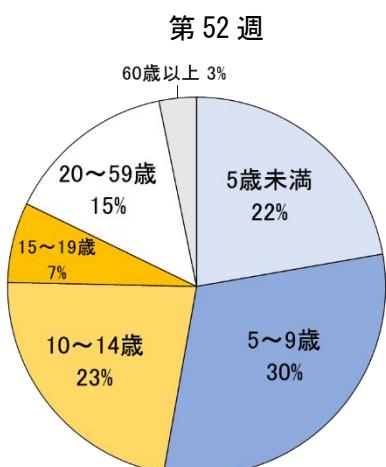
1月5日～11日までの1週間では877人(31.3)の報告があった。前週比81%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(37.8)の約0.8倍であった。 * 新型コロナウイルス感染症流行前5年間(2015～2019)の当該週、前週、後週(計15週)の平均値



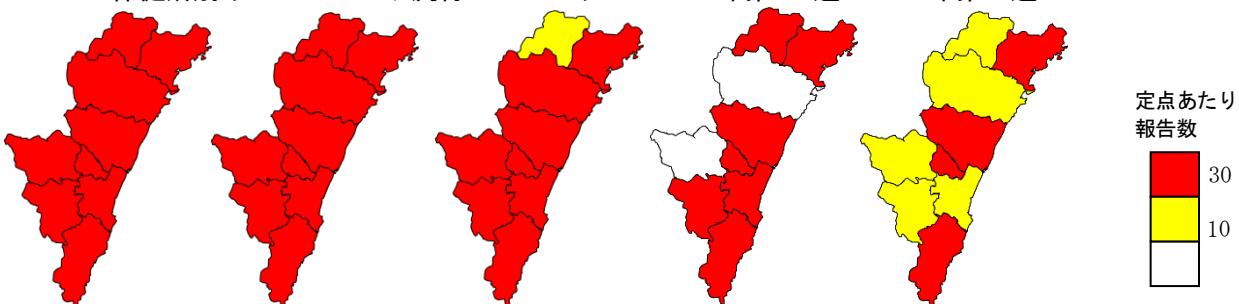
インフルエンザ 保健所別推移(3週分)



インフルエンザ 年齢群別グラフ



保健所別インフルエンザ流行レベルマップ 2025年第50週～2026年第2週



2025年50週 (県全体 99.9) 2025年51週 (県全体 94.8) 2025年52週 (県全体 62.6) 2026年1週 (県全体 38.7) 2026年2週 (県全体 31.3)

□ 全国第52週、1週インフルエンザ発生動向

第52週(2025年12月22日～12月28日)は87,534人(22.8)の報告があった。前週比70%と減少した。第1週(2025年12月29日～2026年1月4日)は33,217人(10.4)の報告があった。前週比45%と減少した(年末年始含む)。宮崎県(38.7)、鹿児島県(23.2)、沖縄県(23.2)からの報告が多かった。年齢群別では5歳未満が全体の17%、5～9歳が16%、10～14歳が12%、15～19歳が8%、20～59歳が38%、60歳以上が9%であった。